

副会頭と各支部の運営委員が意見交換

正副支部長・運営委員会議

各地域を代表する企業や団体で構成する支部運営委員の連絡会議を開催した。

東神戸支部（中島洋人支部長）には藤岡副会頭、中央支部（今津由雄支部長）には高田副会頭、西神戸支部（松田幸治支部長）には吉井副会頭がそれぞれ出席し、各企業・団体の取り組みや管内の景況感について意見交換を行った。

各地域の運営委員からは、原材料費や人件費の高騰、深刻な人手不足に加え、中東情勢悪化による悪影響への懸念などの経営課題が報告された。

また、各社・団体の特徴的な取り組みとして、万博や人気キャラクターとのコラボ商品販売による売上増加やAIレジ導入による業務効率の向上、地域活性化に向けた“三宮VS元町綱引き大会”の実施などが紹介された。

各副会頭からは、「地域のキーマンを中心にさらなる活性化を進めてほしい」「神戸らしさを残しながら都心再開発に取り組むことが重要」「中東情勢は予断を許さないが、政府の対策をうまく活用してほしい」など、各地域の牽引役である運営委員にエールを送った。



中小企業振興部

3.6

ノーベル化学賞のキーマテリアル“MOF”の可能性を考える

新技術活用ミートアップ

新事業・イノベーション創出委員会は、会員企業のイノベーション創出支援の一環として、新技術や関連サービスを紹介するミートアップイベントを開催している。

今回は、ノーベル化学賞を受賞した京都大学特別教授の北川進氏の研究を基盤とした多孔性金属錯体「PCP/MOF」技術の最新動向とそのビジネス活用をテーマに、(株)Atomis代表取締役CEOの浅利大介氏を講師に迎え、技術の概要と今後のビジネスチャンスについて説明を聞いた。

浅利氏は、分子レベルの穴でガスを自在に操るMOFの研

究の歴史や素材の特長を解説し、安全かつ低コストでMOF素材を量産化する事業、次世代高圧ガス容器を活用したガスの流通やCO₂をメタノールなどに変換するインパクト事業などの具体的な取り組みを紹介した。また、「強みはAIを活用した最適設計と量産化技術。スタートアップとして社会実装を加速させたい」と意欲を示した。

参加者からは、「MOFの基礎知識から様々な研究分野への応用の可能性まで理解できた。今後の連携を模索したい」との声が聞かれた。



産業部産業振興チーム

3.10 部活動の地域展開と企業参入の状況を学ぶ

神戸スポーツ産業懇話会 特別公開セミナー

神戸スポーツ産業懇話会は、教員の働き方改革や少子化を背景に、全国的に取り組みが進む「部活動の地域展開」をテーマに、兵庫県と神戸市における進捗状況や課題、企業参入の実情について学ぶセミナーを開催した。

神戸市教育委員会事務局の永井伸晃氏は、本年9月から本格始動する「KOBE◆KATSU（コベカツ）」について説明。登録クラブを検索できる専用Webサイトや会費負担を軽減する“コベカツ支援基金”などのサポート体制を紹介した。

兵庫県教育委員会事務局の鶴野敬二郎氏は、自治体と地

域・企業が連携した部活動の支援体制を説明し、地元企業の積極的な参画を呼びかけた。

また、地元企業の参入事例の紹介では、放送や動画発信に取り組む“放送ブロードキャスティングクラブ”の能崎まゆみ氏と、指導者と部活動とのマッチングプラットフォームを提供する神戸大学起業部“Plastruclub”の森下日菜子氏が登壇。資金確保などの運営上の課題や企業の具体的な関わり方などについて説明した。

セミナー後には、登壇者や参加者同士での交流が活発に行われた。



産業部産業振興チーム

2.25 インド進出の可能性を探る

インド経済セミナー



国際ビジネス委員会は、在大阪・神戸インド総領事館、ジェトロ神戸、日本インド文化経済センターとの共同主催で、14億人の人口を抱える巨大な成長国として注目を集めるインドをテーマにセミナーを開催した。

基調講演では、在大阪・神戸インド総領事のチャンドル・アップル氏が登壇し、インド経済の成長性や日系企業進出の親和性について解説。あわせて、インド進出企業4社による事例紹介やパネルディスカッションを実施した。

終了後には、インド料理を振る舞う交流会を実施し、主催者や登壇者、参加者の間で活発な意見交換が行われた。

産業部国際チーム

2.26 神戸空港国際化を機とした都市戦略を考える

第30回神戸経済経営フォーラム



当商工会議所と神戸大学経済経営研究所の共催で、同研究所教授の松尾美和氏を講師に迎え、神戸経済経営フォーラムを開催した。

松尾氏は、人口減少やインバウンド需要の取りこぼしなど神戸の課題について触れるとともに空港利用拡大により経済振興に取り組む福岡県など他都市の事例を紹介。

また、空港国際化を機に地域経済の活性化を図るためには、「運用時間の拡大や輸送力の強化、周辺都市との連携がポイントになる」と述べ、アクセス向上や滞在価値創出に向けた先行投資の重要性を強調した。

産業部国際チーム

2.26 神戸で進む再開発プロジェクトを知る

令和7年度支社長・支店長懇談会



神戸市内に支社・支店を置く会員事業所を対象に支社長・支店長懇談会を開催した。

第一部の講演会では、「神戸の未来に向けた持続可能な大都市経営」をテーマに、神戸市副市長の小松恵一氏が登壇。小松氏は、三宮・ウォーターフロントエリアの再整備計画や郊外拠点駅の再整備事業など、都心部の魅力向上に関する施策から市民の居住環境向上策に至るまで、神戸市の重点施策を幅広く説明した。

第二部の交流会では、役員・議員も含めた参加者間で活発な意見交換が行われ、会員交流の輪が広がった。

会員事業部事業推進チーム

3.11 兵庫経済の発展に向けた連携強化を確認

兵庫県・兵庫県議会との懇談会



行政と議会、経済界のトップによる地域経済の活性化に向けた意見交換の場として、兵庫県・兵庫県議会と兵庫県商工会議所連合会との懇談会を開催した。

懇談会には、県・県議会幹部や県内18商工会議所の代表らが出席。川崎会頭は、外国人を含めた多様な人材が活躍できる環境整備や地域産業への支援拡充、神戸空港国際化を機とした交流人口の拡大策などを要望した。齋藤知事や山口議長からは、兵庫県の取り組みや各意見・要望への認識が示され、さらなる連携強化を相互に確認した。

総務部総務チーム

3.5 若手社員の成長を促進する指導法を学ぶ

「今どき」部下のマネジメントに必要な思考と指導方法



若手社員の特徴や仕事に対する考え方を理解し、部下のモチベーションを向上させるマネジメント法を習得するため、インクレセントの山本真奈美氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

山本氏は、「部下の心に響く指導を行うためには、信頼関係の土台づくりが重要。日頃のコミュニケーションを大切にすべき」と強調した。

参加者からは、「世代間のギャップやズレを改めて理解できた。時間をかけて部下の気持ちに寄り添い、良好な関係を築いていきたい」との声が聞かれた。

会員事業部事業推進チーム

訃報

高崎正弘 元副会頭を偲ぶ



当商工会議所名誉議員（元副会頭）の高崎正弘氏（㈱三井住友銀行名誉顧問、享年90歳）が去る3月15日、ご逝去されました。

平成13（2001）年から平成19（2007）年まで2期6年にわたり当商工会議所副会頭を務められ、この間、中小企業支援の牽引役として力強いリーダーシップを発揮し、特に、中小企業支援機関の包括的な連携の枠組みづくりや兵庫県中小企業再生支援協議会（現在の兵庫県中小企業活性化協議会）の設立において主導的な役割を果たされました。

ご生前のご功績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。